

題 言

永代橋の工事

日本の工事技術史に、特筆しなければならぬものが、近頃多きが中にも、特に復興局の隅田川六大橋の工事は、近代に於ける期劃的のものである。

局外より種々の論があつたが、第一に竣工したる相生橋を、次いで昨年末竣工したる永代橋を見て今誰か何の議論があろう。

此等の工事が他の土木建築工事に對して限りなき教訓と刺戟とを與へつゝあることを思へば、唯我等は此の工事を實行したる當局者の努力に對して感謝に耐へないものである。

同愛記念病院の工事

東洋一と稱する事の大流行の中に、同愛病院の建築こそ實に人類愛に、そゞり立つた純施療病院であつて、其建築工事の内容の設施外觀ともに實に我國に於て比類なき高級のものである。

設計は病院建築に造詣深き工學士近藤十郎氏の最新最善の案になるもので、都市病院建築の範たるものである。工事は竹中工務店の實費清算請負で之又我國工事界に清新なるレコードを與ふるものとして注目せらるゝ處である。目下尙ほ工事中なるも設計及び工事施工上に就て參考すべき刻下の好實例である。

メートル建の小住宅

曾て大正博覽會に、メートル法の文化住宅なるものが見本的に實物を出陳された事があるを記憶するが、其後住宅に關してはメートル建築を聞いた事がない。

土木に關する方面でも今尙ほメートルと呎と兩用して居る處が多いが、兎に角メートルを多く使用しつゝある。

建築方面、特に住宅に至つては思ひ切りの悪い、實行力の鈍い事甚しいものがある。此時香川県高松市の一建築家がメートル法の小住宅を比較的廉價に供給しつゝある事は、斯界の爲めに大に氣を吐くものである。

本號より内容改増

昨年十月工事書報が鐵筋コンクリート工事基本知識號を發行して以來、コンクリート工事の知識を要求せらるゝ事益々大なるものがある。本年一月號にコンクリートの合理的配合と經濟的見積の原理とを別冊附録として發行し又多大の共鳴を得た。

本號より工事基本知識講座の別冊附録を添付して、廣く讀者に對し工事研究と所謂經濟的施工の根本知識を強調せんとするものである。

尙ほ本文中に數頁の社會グラフを加へ以つて讀者に對し工事以外の見聞に資するものである。